

## 「西王母」「八仙人」 石像9体お目見え

園の  
趙燕 梨湯

鳥取県湯梨浜町引地のと、七福神のルーツとされる中国庭園・燕趙園に、長れる「八仙人(はっせん)の仙女として知られる「にん」の石像、合わせ「西王母(せいおうぼ)」で九体が設置され四日、

除幕式をして一般公開される。不老長寿、招福の像として来園者に親しまれそ

うだ。石像は「漢白大理石」と呼ぶ中国特産の白色の大理石製。各像の高さは一・二一・五尺。清朝末期、百年余り前に造られたという。

二〇〇一年に死去した大阪市内の会社社長が三



燕趙園の中庭に設置された「西王母と八仙人」の石像。右から3体目、最高所に立つのが西王母像

十年ほど前、中国から入手。「一番ふさわしい場所」に寄贈を」という遺言によって、事業を引き継いだ夫人(現社長)が寄贈先を探し、杉原弘一郎(東京印刷社長(米子市))、同園に孔子・孟子像を寄贈した小松昭夫小松電機産業社長(松江市)らの仲介で燕趙園に決まった。場所は、孔子・孟子像が立つ集粹館と園内を結ぶ中庭。東郷池と園内の楼閣を背に並ぶ。神仙思想にふさわしいように、

蓬莱(ほうらい)山をイメージした築庭の中に、各石像が自然石の上に立った様子は、まさに仙境のよう。

「西王母」は、天帝の娘とされた仙女で「天界の最高仙女」として信仰を集める。三千年に一度実り、食べれば長寿を得るとされる「仙桃」を持つ。孫悟空が実を取ろうとして大暴れしたことは有名な伝説。「八仙人」は、財運、福徳をもたらす仙人で、中国では祝賀の席に八仙人を描いた掛け軸や置物を飾る。日本の「宝船の絵は、八仙人が蓬莱山に向かう」「八仙渡海図」が元という。